資料３－２

原文（素案）

第３章　ふくしまの農林水産業・農山漁村のめざす姿

※下線部分→修正・加筆等した部分

第１節　基本目標

福島県の農林水産業・農山漁村をめぐる情勢は、著しく変化を続けています。

このような中、農林漁業者が意欲とやりがいを持って活躍でき、広く職業として選択されるような持続可能な農林水産業を展開するとともに、農山漁村の魅力と活力を維持していくため、次の視点を基本に、関係者一体となり重点的に取り組んでいく必要があります。

〇東日本大震災・原子力災害からの復興を成し遂げること。
〇農林水産業を担う人材と生産基盤を将来にわたり確保していくこと。
〇安全で品質が高く、魅力ある農林水産物を安定的に生産・供給していくこと。
〇ふるさとを誇りと思えるように農山漁村の魅力や役割を発揮し続ける環境を整えていくこと。

以上を踏まえ、本計画の基本目標を次のとおり定めます。

（仮）儲かる農林水産業の実現と誇れるふるさとの形成

第２節　~~将来において~~めざす姿

基本目標を実現するため、本県の農林水産業・農山漁村のめざす姿を次のとおり示します。

１　東日本大震災・原子力災害からの復興

~~〇　地震・津波被災地域においては、農林水産関係インフラが復旧しています。~~

〇　避難指示が解除された地域では、個人や組織による経営の再開が進み、発災以前の農林水産業が戻るとともに、先端技術等を活用した新たな経営・生産方式が全国に先駆けて展開されています。

〇　特定復興再生拠点区域においても農地や関連施設等の復旧が図られ、着実かつ段階的に農林水産業の営みが再開されています。

〇　風評は払拭され、本県産農林水産物は、その品質に見合う適正な評価で取引されています。

２　持続的な発展を支える強固な基盤の確保

~~〇　地域の状況に応じた効率的かつ安定的な経営ができる生産基盤が確保されています。~~

〇　経営規模の大小や中山間地域といった条件にかかわらず、他産業並の所得を安定的に確保する意欲ある経営体と多様な主体が産地を支えています。

○　農林水産業を職業として選択する若者が増加しています。
○　農林水産業が持続的に発展するための基盤が強固となり、経営や生産基盤が次の世代に円滑に継承されています。

３　安全で魅力的な農林水産物の供給

○　GAPに基づく放射性物質対策を始めとする食品安全等に配慮した生産と検査、そして適切な情報提供により、農林水産物の安全と消費者等からの信頼が引き続き確保されています。
○　ロボット、AI、IoTなど先端技術を活用した経営・生産が展開されているとともに、環境に配慮しながらも気候変動に対応して安定的に農林水産物が生産されています。
○　市場ニーズに即した魅力ある農林水産物づくりとふくしまならではのブランドが確立するなど、生産から流通・販売に至る一体的で戦略的な取組が展開されています。

４　活力と魅力のある農山漁村の実現

○　農林水産業に関わる人のみならず、県内外の多くの方々の農林水産業・農山漁村の役割に対する理解が醸成され、それぞれの主体的な行動により支え合っています。
○　県民等も参画して農林水産業・農山漁村が有する多面的機能が維持・発揮され、災害に強く魅力的な農山漁村となっています。
○　農林水産物や自然、歴史等の観光資源など様々な地域資源を活用した商品・サービスの創出など、地域産業６次化により、農山漁村が活力に満ちています。

第３節　めざす姿の実現に向けた施策の展開方向

めざす姿を実現するため、福島県総合計画で掲げる農林水産業に係る政策分野別の主要施策を踏まえつつ、農林漁業者をはじめ多くの県民から寄せられた御意見をもとに、今後の農林水産業・農山漁村の振興方向を次のとおり示します。

また、経済・社会・環境の課題を統合的に解決することを目指すSDGｓ（持続可能な開発目標）の理念が幅広く浸透し、世界各国で取組が始まっています。

自然資本や環境に立脚した農林水産業は、SDGｓの実現において果たす役割が非常に大きく、他産業に率先してSDGｓの実現に貢献することが求められています。このため、本県の農林水産業・農山漁村のめざす姿の実現に向けては、SDGｓの理念・目標を意識しながら必要な施策を推進していきます。

施策体系 （資料３－３）